平成２５年度

かほく市教育委員会
点検及び評価報告書

平成２６年８月

かほく市教育委員会

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２７条の規定に基づき、平成２５年度のかほく市教育委員会の活動を振り返るとともに、教育委員会が毎年示す「かほく市の教育」の重点目標を達成するための具体的施策について、自ら事務事業の点検及び評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々からの意見もいただいて作成したものです。

かほく市教育委員会は、心豊かで創造性に富む人づくりを目指すため、創造力と生きがいを育む教育の推進に努力してまいります。

平成２６年８月

かほく市教育委員会

かほく市の教育（平成２５年度）

教育方針

海とみどりに抱かれた「やすらぎ」と「うるおい」のあるまちを愛し、心豊かで創造性に富む人づくりを目指すため、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を担い、かつ連携を深め、創造力と生きがいを育む教育を推進する。

学校教育目標

将来のかほく市を担う心豊かでたくましい児童生徒の育成を目指す

○　重点事項

- 確かな学力の育成と学ぶ楽しさを実感できる授業づくり
- 児童生徒の生活習慣及び学習規律の定着
- いじめ、不登校や問題行動の防止と心の教育の推進
- 学校安全対策の向上と学校施設の整備

生涯教育目標

個々が生きがいを持ち、共に学びあい支えあう生活を目指す

○　重点事項

- 地域人材の育成と地域活動の活性化
- 学びの機会の充実
- 読書環境の充実と読書活動の推進
- 市民憲章推進活動の促進

スポーツ振興目標

自らスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を目指す

○　重点事項

- 生涯スポーツの推進
- 児童生徒の体力・運動能力の向上
- 競技スポーツの充実・強化
- 体育施設整備の促進

目　　次

Ⅰ　教育委員会の活動状況 …… 1

（1） 教育委員会会議の開催状況 …… 1
（2） 教育委員会会議の審議状況 …… 1
（3） 教育委員の主な活動状況 …… 3

Ⅱ　点検及び評価 …… 5

《学校教育目標》
将来のかほく市を担う心豊かでたくましい児童生徒の育成を目指す
【学校教育課・教育センター】

ア）重点事項としての取組
1　確かな学力の育成と学ぶ楽しさを実感できる授業づくり …… 7
2　児童・生徒の生活習慣及び学習規律の定着 …… １１
3　いじめ、不登校や問題行動の防止と心の教育の推進 …… １３
4　学校安全対策の向上と学校施設の整備 …… １６

イ）その他の取組

《生涯教育目標》
個々が生きがいを持ち、共に学びあい支えあう生活を目指す
【生涯学習課： 生涯学習係・文化振興係・図書館係】

ア）重点事項としての取組
1　地域人材の育成と地域活動の活性化 …… ２３
2　学びの機会の充実 …… ２６
3　読書環境の充実と読書活動の推進 …… ２９
4　市民憲章推進活動の促進 …… ３１

イ）その他の取り組み

《スポーツ振興目標》
自らスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を目指す
【生涯学習課： スポーツ振興係】

ア）重点事項としての取組
1　生涯スポーツの推進 …… ３９
2　児童生徒の体力・運動能力の向上 …… ４１
3　競技スポーツの拡充・強化 …… ４２
4　体育施設整備の促進 …… ４４

イ）その他の取り組み

資料 …… ４９

Ⅰ　教育委員会の活動状況

（１）　教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、原則として毎月１回「教育委員会」を開催し、平成２５年度は１２回開催しました。

（２）　教育委員会会議の審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２３条に定める職務について、及び「市長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任する規則」の規定に基づき、平成２５年度は３９件について審議しました。

◎平成２５年度教育委員会会議開催状況

回（開催日）	審議決定事項
平成 25 年第４回 (平成25年4月26日)	選挙第　１号 かほく市教育委員会委員長の選挙について 選挙第　２号 かほく市教育委員会委員長職務代理者の指定について 議案第　５号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について 議案第　６号 かほく市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第　７号 かほく市就学指導委員会の委嘱について 議案第　８号 かほく市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第　９号 かほく市社会教育委員の委嘱について 議案第１０号 かほく市公民館長の任命について 議案第１１号 かほく市少年愛護センター運営委員会委員の任命について 議案第１２号 かほく市少年愛護センター少年愛護員の委嘱について 議案第１３号 かほく市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 報告事項・　平成２４年度かほく市立中学校英語検定結果について ・　かほく市教育振興基本計画の策定状況について
平成 25 年第５回 (平成25年5月7日)	議案第１４号 県費負担教職員の内申について
平成 25 年第６回 (平成25年5月22日)	議案第１５号 かほく市教育振興基本計画について 報告事項・　平成２５年度第１回かほく市社会教育委員会議の結果報告について
平成 25 年第７回 (平成25年6月28日)	議案第１５号 かほく市教育振興基本計画について（継続） 議案第１６号 平成２４年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について 議案第１７号 かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の取消しについて 報告事項・　平成２５年度かほく市奨学生選考委員会の結果報告について ・　平成２５年度６月補正について ・　平成２５年度加賀地区中学校体育大会の結果報告について ・　メスキルヒ市姉妹都市交流青少年訪問団受入予定について
平成 25 年第８回 (平成25年7月19日)	議案第１５号 かほく市教育振興基本計画について（継続） 議案第１６号 平成２４年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続） 議案第１８号 かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の候補者の選定について 議案第１９号 かほく市公の施設指定管理者選定審議会の委員の委嘱について 報告事項・　平成２５年度前期学校訪問のまとめ ・　第３回かほく市子ども議会について ・　第２６回ＪＡＰＡＮＴＥＮＴについて ・　第６５回石川県民体育大会について

回（開催日）	審議決定事項
平成 25 年第９回 (平成25年８月27日)	議案第１６号　平成２４年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続） 議案第２０号　石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員会委員の交代について 議案第２１号　平成２５年度かほく市教育委員会表彰選考委員会の委員の委嘱について
	報告事項・　平成２５年度北信越中学校体育大会等成績一覧について ・　通学路の安全点検について ・　平成２５年度かほく市立小中学校運動会日程及び臨席者一覧について ・　平成２５年度新規外国語指導助手（ＡＬＴ）について ・　第１０回かほく市生涯学習フェスティバルについて ・　平成２５年度第２回かほく市社会教育委員会議の結果報告について ・　第６５回石川県民体育大会成績について
平成 25 年第 10 回 (平成25年９月25日)	議案第２２号　平成２５年度かほく市教育委員会表彰被表彰者の決定について
	報告事項・　平成２５年度全国中学校体育大会等成績一覧について ・　平成２５年度学力調査結果について ・　平成２５年度姉妹都市交流メスキルヒ市青少年訪問団受入事業について
平成 25 年第 11 回 (平成25年10月29日)	議案第２３号　かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の候補者の選定について
	報告事項・　平成２５年度河北郡市中学校新人体育大会の結果について
平成 25 年第 12 回 (平成25年11月27日)	報告事項・　平成２５年度１２月補正予算について ・　かほく市高松総合型地域スポーツクラブ拠点施設条例の一部を改正する条例について ・　かほく市体育施設条例の一部を改正する条例について ・　かほく市スポーツ競技及び文化活動における全国大会等出場者激励費等支給要綱の制定について ・　第１０回かほく市成人式について ・　第１０回かほく市立志式について
平成 25 年第 13 回 (平成25年12月24日)	議案第２４号　かほく市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第２５号　かほく市公の施設指定管理者選定審議会の委員の委嘱について 議案第２６号　かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の候補者の選定について（諮問）
	報告事項・　平成２５年度かほく市就学指導委員会の結果について ・　第１０回かほく市制施行記念継走大会について ・　かほく市社会教育委員の公募について
平成 26 年第１回 (平成26年２月10日)	議案第　１号　平成２６年度かほく市教育目標について 議案第　２号　かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の候補者の選定について
	報告事項・　平成２６年度当初予算案について ・　平成２５年度３月補正予算について ・　かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の候補者の選定について ・　かほく市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について ・　第１０回かほく市成人式参加状況について

回（開催日）	審議決定事項
	・　第１０回かほく市制施行記念継走大会開会式への出席等について
平成 26 年第 2 回 (平成26年3月27日)	議案第　３号 かほく市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 議案第　４号 かほく市立学校管理規則の一部を改正する規則について 議案第　５号 石川県西田幾多郎記念哲学館条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第　６号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について 議案第　７号 かほく市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第　８号 かほく市就学指導委員会の委嘱について 議案第　９号 かほく市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第１０号 かほく市社会教育委員の委嘱について 議案第１１号 かほく市公民館長の任命について 議案第１２号 石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員会委員の委嘱について 議案第１３号 かほく市少年愛護センター運営委員会委員の任命について 議案第１４号 かほく市少年愛護センター少年愛護員の委嘱について 議案第１５号 かほく市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第１６号 かほく市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第１７号 かほく市文化財保護審議会委員の任命について
	報告事項・　平成２６年度かほく市教育委員会職員の人事について ・　平成２６年度かほく市教育委員会嘱託職員の新規採用について ・　平成２６年度主要事業計画（案）について ・　平成２５年度第３回かほく市社会教育委員会議の結果報告について

（３）　教育委員の主な活動状況

◎教育委員が出席した主な活動等

年月日	活動内容
平成２５年　４月　４日	平成２５年度初任・新任教職員辞令交付式
平成２５年　４月　５日	平成２５年度かほく市立小中学校入学式
平成２５年　５月　９日	平成２５年度河北郡市教育委員会連合会定期総会
平成２５年　５月１０日	平成２５年度石川県教育委員会連合会定期総会
平成２５年　５月１７日	前期学校訪問（金津小学校）
平成２５年　５月２７日	前期学校訪問（外日角小学校）
平成２５年　５月２９日	前期学校訪問（高松中学校）
平成２５年　６月　２日	第１０回かほく市総合体育大会開会式
平成２５年　６月　３日	前期学校訪問（高松小学校）
平成２５年　６月　７日	第６９回寸心忌・献花式
平成２５年　６月１８日	前期学校訪問（河北台中学校）
平成２５年　６月２７日	前期学校訪問（七塚小学校）
平成２５年　７月　１日	前期学校訪問（大海小学校）

年月日	活動内容
平成２５年　７月　３日	前期学校訪問（宇ノ気小学校）
平成２５年　７月　８日	前期学校訪問（宇ノ気中学校）
平成２５年　７月１２日	第６５回石川県民体育大会出場選手壮行会
平成２５年　７月２０日	石川県中学校総合体育大会
平成２５年　７月２３日	石川県市町教育委員会セミナー
平成２５年　８月　７日	第３回かほく市子ども議会
平成２５年　８月１０日	第６５回石川県民体育大会（～１１日）
平成２５年　８月２５日	サンドヒルかほく市２０１３グラウンド・ゴルフ大会
平成２５年　８月２７日	学力向上ヒアリング　（～８月２８日）
平成２５年　９月　７日	小学校運動会（金津小学校） 中学校運動会（高松中学校、河北台中学校、宇ノ気中学校）
平成２５年　９月１４日	小学校運動会（高松小学校、七塚小学校、外日角小学校、宇ノ気小学校）
平成２５年　９月２８日	小学校運動会（大海小学校）
平成２５年１０月１８日	平成２５年度石川県市町教育委員会連合会研究大会
平成２５年１０月１９日	かほく市ＰＴＡ大会
平成２５年１０月２６日	平成２５年度かほく市教育委員会表彰式
平成２５年１０月２８日	河北郡市教育委員会連合会総会
平成２５年１０月２９日	メスキルヒ市青少年訪問団さよならパーティー
平成２６年　１月１２日	第１０回かほく市成人式
平成２６年　１月３１日	第１０回かほく市立志式
平成２６年　２月　７日	後期学校訪問（高松小学校、大海小学校、高松中学校）
平成２６年　２月１７日	後期学校訪問（宇ノ気小学校、金津小学校、宇ノ気中学校）
平成２６年　２月１９日	後期学校訪問（七塚小学校、外日角小学校、河北台中学校）
平成２６年　３月　２日	市制施行１０周年記念第１０回かほく市制施行記念継走大会
平成２６年　３月１３日	平成２５年度かほく市立中学校卒業式
平成２６年　３月１８日	平成２５年度かほく市立小学校卒業式
平成２６年　３月２８日	平成２５年度かほく市立小中学校教職員離任式

Ⅱ　点検及び評価

（１）　点検及び評価の対象

点検及び評価の対象は、「かほく市の教育方針」に基づき平成２５年度に実施した具体的な施策とします。

（２）　点検及び評価の方法

点検及び評価は、施策に基づく事業内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題などを示しています。

また、点検及び評価にあたっては、教育に関し学識経験を有する方として、かほく市人権擁護委員の羽田輝雄氏、かほく市社会福祉協議会長の宮前昭夫氏、かほく市人権擁護委員の能任まち子氏から様々な意見や助言を得ました。

（３）　主な意見等

【共通】

・限られた予算や人員で、優先順位を決めて多種多様な事業を実施している。幼児から高齢者に至るまで幅広い年齢層を対象としており、たいへんなご苦労があったのではないかと思う。これらの充実した事業等を実施できた達成感から、次年度の事業に向けて意欲が湧くものと考えられるので引き続いて頑張っていただきたい。

【学校教育課】

・特別支援学級の支援員や学級の補助員を配置することによって、保護者は安心して子どもを預けることができる状況にある。特に低学年の落ち着きのない児童等にかかわることで、教職員にとっては落ち着いた学級経営が可能となり、また学校管理上においても成果が見られるので、経費は掛っても継続してもらいたい。

・教育支援センター事業において、石川県立看護大学が連携事業として学習支援ボランティアに参画しているが、看護大生は児童生徒にとって年齢も近く、学習意欲の喚起には効果があると考えるので、今後もこの事業を継続してもらいたい。

・成長応援ノートの活用は、保育園（幼稚園）から中学３年生までの情報の共有化を図ることを可能し、幼児・児童生徒の連続した支援に役立ち、保護者の安心に繋がりたいへん有効な取組だと思う。

・不審者情報がある中において、遠方から通学する児童の安全安心を確保するために、スクールバス運用の更なる拡大が可能なものか検討していただきたい。

・「Ｅメールかほく」といった情報発信手段は、様々な情報を市民にいち早く伝えるには有効である。学校のホームページも含め情報発信手段を今後も充実を図りながら継続していってもらいたい。

・学校給食のより安全でよりおいしい給食の提供を図るため、学校給食センター長寿命化計画に基づき、本年度より老朽化した厨房機器の更新工事を実施している。今後、アレルギー体質の子どもが増えてくる傾向にあるが、これらに対応するための施策を検討していただきたい。

・いじめや体罰問題が騒がれている昨今、かほく市において心の教室相談員やスクールカウンセラーを配置して事業を展開しているが、いじめの未然防止やいじめが実際にあった場合に備えるうえで体制づくり等を早急に検討していただきたい。

【生涯学習課】

・市民憲章推進活動の取組として、「市民憲章唱和の推進」や「あいさつ運動」、「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「国旗掲揚運動」といった事業を行っているが、教育委員会部局だけで実施するのではなく、もっと市長部局も巻き込んだ取組として展開すべきものであると考える。市民憲章をより市民の生活に根付いたものとするためにも、全庁的な事業展開を検討していただきたい。

・県社会教育委員の会議などでも、家庭の教育力の低下が指摘されている。これに対応するには地道な取組が必要と考えるが、地域公民館などでの講座等の活動により家庭教育力の向上や人づくりを図れば、さらには地域の活力向上にも繋がると考える。

・生涯教育やスポーツ振興といった分野において事業展開を図る場合、教育行政として全てを直接的に実施するのではなく、民間や総合型地域スポーツクラブあるいはボランティアに託すといったことによる業務のスリム化が必要な時代ではないかと思う。また、サッカー・ラグビー競技場をはじめとするすばらしい施設が整備された。施設の有効な利活用を考えて今後の管理運営と事業の展開を図っていってほしい。

・女性協議会や壮年団などといった社会教育団体は、個人や趣味的な小グループ・サークルよりも、いろいろな面において役割を担い、活動することが可能であり、その継続性も高い。社会教育団体が強固になれば地域活動や公民館活動も活性化する。しかし、近年弱体化傾向にあるので助言・支援をお願いしたい。

これらの意見なども踏まえて、今後の教育行政において創意工夫を図り、かほく市の教育を推進していきます。

《学校教育目標》

将来のかほく市を担う心豊かでたくましい児童生徒の育成を目指す

【学校教育課・教育センター】

ア）重点事項としての取組

1　確かな学力の育成と学ぶ楽しさを実感できる授業づくり

◆ 取組の方向

・基礎、基本の定着と活用力の向上　　・学習に取り組む意欲の向上

・授業力の向上

主な取組

（１）　３５人以下学級の拡大　(6,576 千円)

国・県制度による小学校１年生から小学校４年生までの３５人以下学級を、市独自で小学校５年生まで拡大。

〔高松小学校と宇ノ気小学校に各１名の講師を配置〕

（２）　学力調査の実施　(1,448 千円)

①国・県の学力調査に併せて、小学校４年生から中学３年生までを対象とする基礎学力の調査を実施した。また、同時に学習に対する意識や家庭学習、生活習慣などの状況調査も実施。

②学力調査結果に基づき小中学校の今後の対策について、教育委員と各学校長との学力向上ヒアリングを実施。

学　年	調査教科		備　　考
	４ 月	１ 月	
小学校4年生	国語･算数		県実施
小学校5年生	国語･算数	理科･社会	県･市共同実施
小学校6年生	国語･算数･理科･社会		国･県共同実施
中学校1年生	国語･数学･理科		市実施
中学校2年生	国語･数学･英語		市実施
中学校3年生	国語･数学･理科･社会･英語		国･県共同実施

（３）　管理主事・指導主事２人体制

学校経営の支援及び学力向上に係る諸課題を改善する対策として、学校への指導体制を強化するため、指導主事１名を増員して教員の指導力を向上させ、児童生徒の学力向上を推進。

主な取組	（４）市学校教育研究事業（600 千円） 学校教育研究校を指定し、学力向上につながる児童生徒への効果的な指導方法について研究を行い、教職員の共通理解を深めた。また校内研究を深め、学校教育の振興及び児童生徒の学力の向上も推進。 ・高松小学校（平成２４～２６年度：市指定） 研究主題：　「一人一人が輝き、学び合う子をめざして」 副　　題：　― 相手意識をもって話したり聞いたりする授業を通して ― 発 表 会：　１０月３０日（水） ・高松中学校（平成２４～２５年度：市指定） 研究主題：　「自ら考え　豊かに表現する生徒の育成」 副　　題：　―「基礎基本の定着」と「習得と活用ができる授業づくり」を通して ― 発 表 会：　１１月２０日（水） （５）「いしかわ学びの指針１２か条」推進校指定事業（150 千円） 県の指定を受け、活用力を高めるために、相手意識を持って「話す力」・「聞く力」を身につけさせ、考えた根拠や筋道を加えるようにした。また、教師自身がお互いの授業力向上をめざし、指導改善を進める体制づくりも構築。 ・高松小学校（平成２４～２６年度：県指定） 公開授業　平成２５年１０月３０日（水） （６）特別支援教育体制の推進（16,389 千円） ①特別支援学級配置校において、特別な配慮が必要な児童生徒の必要性に応じて支援員を１０人（高松小学校１人、七塚小学校１人、外日角小学校１人、宇ノ気小学校３人、金津小学校１人、高松中学校１人、河北台中学校１人、宇ノ気中学校１人）配置し、学習活動に必要な支援を実施。 ②緊急雇用創出事業により通常学級における配慮が必要な児童に応じて学級補助員６人（高松小学校１人、七塚小学校１人、外日角小学校１人、宇ノ気小学校３人）を配置し、学習活動に必要な支援を実施。 （７）市教育センターによる各種研修会 教員の資質能力を高めることを目的とする教育講演会に東京学芸大学大学院教授の小林正幸氏を招聘した。また、教科指導講座（国語科）に文部科学省教科調査官の水戸部修治氏、教科指導講座（算数・数学科）に愛知教育

主な取組	大学大学院教授の志水廣氏を招聘。 そのほか、新任教職員研修（1 回）、学力向上教科別研修（7 回）、学校図書館司書研修会（15 回）、特別支援教育支援員・学級補助員研修会（4 回）などを実施。 （８）市ミドルリーダー研修 組織的な学校運営及び学校づくりへの積極的参画に必要な資質の向上を図るとともに、教育の今日的課題に対応できる情報収集力と企画力を有する人材を育成。 ・対象　教務主任、その他校長の推薦する者 ・内容　３回（学力向上対策、学校評価結果の検証、人材育成ほか）

評価	石川県内ではじめて、市独自で導入した小学校５年生の３５人以下学級については、高松小学校と宇ノ気小学校においてそれぞれ講師１名を新たに採用し実施した。これまで国・県の施策により小学校１年から４年生までを対象に３５人以下学級が実施され、学習指導・生徒指導の両面において成果を上げてきたが、５年生においても同様の成果を上げることができた。その成果は、次の３点である。①少人数学級により、学習の「つまづき」の発見や個々の学習進度に応じたきめ細かい指導ができた。②子どもたちの発言しやすい雰囲気が生まれたことで、表現力を高め、思考を深める授業づくりがしやすくなった。③子どもが抱える悩みや相談に時間をかけて応える時間が確保できるようになった。これらの成果から、授業内容の理解が深まるとともに、授業が楽しいと感じる子どもたちが増え、学習意欲の向上につながった。平成２６年度から学力向上や学習意欲向上等の観点から６年生においても拡大していきたい。 平成２４年度に引き続き学力調査を小学校４年生から中学校３年生までの６学年で実施した。 なかでも国が実施する小学校６年生と中学校３年生の国語、算数・数学の教科を比較すると、次のとおりすべての科目で平成２４年度は県平均点を下回っていたものの、平成２５年度はすべての科目で県平均点を上回った。これは、前年度の成績を踏まえ、学力向上対策の共通実践項目として行ってきた「授業改善」、「学力調査結果の活用」、「家庭との連携の強化」等の取組が功を奏した。

評価

《かほく市の平均点と石川県の平均点との比較》

学年・科目	平成 24 年度	平成 25 年度
小学 6 年生・国語	-1.8	＋0.9
小学 6 年生・算数	-2.8	＋1.0
中学 3 年生・国語	-2.6	＋0.9
中学 3 年生・数学	-3.5	＋2.0

これまでの管理主事と指導主事を兼ねた１名体制から、管理主事と指導主事の２名体制となったことで、学校からの様々な要請に対し細部にわたって指導及び支援体制を強化することができた。児童生徒の学力向上はもとより、教職員の授業力の向上や学校経営の支援など多岐にわたった指導助言が可能となったことで、円滑な学級・学校運営も図ることができた。

かほく市学校教育研究事業においては、高松小学校と高松中学校が２年間の指定を受け、継続的な研究主題に取り組み、その成果を公開授業という形で発表した。特に今年度においては、研究指定校が同じ地区の小中学校であったことから、学習指導における小中連携を図ることができた。

特別支援教育支援員の配置は、児童生徒の安定した学校生活に必要不可欠であり、今後も各学校の実態に即した配置を行う必要がある。また一方、市就学指導委員会が当該児童生徒の現状を見極め、個に応じた指導・支援が図ることができた。

市教育センターによる教職員の指導力の向上や、今求められている指導法の改善について中央講師等の指導を仰ぎ、各現場での実践につなげていくことができた。今後は、更に学力向上に重点をおいた研修会を充実させていき、教職員の意識改革を図っていきたい。

平成２５年度に新しく始めたミドルリーダー研修は、学校運営の中核を担う人材を育成することを主眼とした研修であり、小学校と中学校から合計１３名を参集して開催した。その内容は、「学力向上対策」、「学校評価結果の検証」、「人材育成」などといった課題をグループ討議する方法で行い、同世代の参加者が互いに意見を聞きまた情報交換することによって、幅広い認識を深めることができたと考える。また、多くの管理職が定年退職により現場を離れることは喫緊の課題であることから、将来の管理職育成を見据えた研修を継続して実施していきたい。

２　児童・生徒の生活習慣及び学習規律の定着

◆ 取組の方向

・学校における生活規律の指導充実

・小中連携による計画的・継続的指導

・家庭と連携した基本的生活習慣の確立の取組

主な取組	（１） かほく市学校教育研究会との連携 ・生徒指導部会・・・さわやかなあいさつ、授業中の姿勢 正しい言葉遣い ・学力向上部会・・・中学校区単位で共通実践項目を設定 （２） かほく市校長会との連携 小中連携研修会の実施 期日　１１月２５日（月）　同時開催 ・高松中学校地区（高松小学校、大海小学校、高松中学校） 会場： 大海小学校 内容： 公開授業（４年・総合、５年・道徳、６年・算数）及びグループ討議、情報交換 ・河北台中学校区（七塚小学校、外日角小学校、河北台中学校） 会場：七塚小学校 内容： 公開授業（外国語活動を含めた高学年の授業）及び分科会（国語、算数、理科、社会、外国語、生徒指導） ・宇ノ気中学校区（宇ノ気小学校、金津小学校、宇ノ気中学校） 会場： 宇ノ気中学校 内容： 公開授業及び全体会（テーマ：中学校の生徒指導のあり方） （３） 幼保小連携事業の推進 各幼稚園・各保育園と各小学校が事業を通して連携することにより、基本的な生活習慣の定着をめざすとともに、幼児・児童の豊かな心をはぐくむ支援の実施。 （４） 子育て支援講座 小学校入学前の子どもを持つ全ての保護者が参加する「就学時健康診断」の機会を活用して、子どもとの接し方や、小学校入学前に子どもに身につけさせたい基本的な生活習慣や自制心・自立心等の「生きる力」について有識者や学校長などが講話を６小学校で開催。 （５）成長応援ノートの活用 特別支援が必要な子ども達の成長応援ノートを作成して活用することで、情報を共有し学校と家族間の意思の疎通を支援。

評価	かほく市学校教育研究会の「生徒指導部会」及び「学力向上部会」との連携を図りながら、児童生徒の生活習慣及び学習規律等の定着を進めてきた。 こうした中、生徒指導部会においては、「あいさつ」「姿勢」「言葉遣い」を市内共通の実践項目として実践を重ね４年目となることから、かなりの定着が見られるようになってきた。また、学力向上部会では、９年間を見通した児童生徒への指導として、「身につけさせたい学習習慣」を中心に協議を進めてきた。各中学校区において、小中共通の指導内容を掲げた指導を実践してきたことで、さらに着実な定着とその充実を図ることができた。 小中連携研修会については、毎年１１月に小中連携の日を設定してから２年目の実践を終えた。本研修会は、市校長会と連携をした取組であり、小中の教職員が、学力向上や学習指導・生徒指導のあり方等に共通理解を図ることを目的としている。本年度も各中学校区単位で開催し、研究授業や公開授業及び分科会等を行い、小中の連携を一層深めることの大切さが確認された。 保育園・幼稚園と小学校の連携、小学校と中学校の連携において、高松地区、七塚地区、宇ノ気地区といったエリア単位で、体験入学、授業の見学、運動会の見学などの機会をつくることによって、幼児・園児の不安解消等において手助けし、円滑な進級、一貫的な教育において成果があった。 成長応援ノートは、平成２５年３月から配布し平成２６年３月現在で８９人の作成があった。その内訳は、園児１２人、小学生４６人、中学生２９人、支援学校の児童生徒２人であった。 成長応援ノートを利用する保護者からは、「引き継ぎできるものがあって良かった。」、「同じことを何度も言わなくてもよくなった。」との感想があった。また、特に入学前で、学校でうまくやっていけるか不安を抱えた保護者からは、保育園からの引き継ぎもできることから、安心材料の一つにもなったようである。しかし、その一方で誰がこの成長応援ノートをどのタイミングで紹介していくかなどの課題もあるが、今後、保護者の理解・協力を得られるように、課題を検討しながらも推奨していく必要がある。

３　いじめ、不登校や問題行動の防止と心の教育の推進

◆ 取組の方向

・校内指導体制、教育相談体制の充実

・幼保小、小中連携による支援体制の推進

・家庭や関係機関との連携による個に応じた対応

主な取組	（１）教育相談事業（112 千円） ①臨床心理士等による不登校やいじめなどの教育相談を実施。 （来所３１件、出張８件、電話５７件　計９６件） ②教育支援センター「すまいる」は、通室生（１１人）に対して、各学期当初の「登校チャレンジ週間」や毎月の始めに一人一人の状況に応じた「ステップアップ目標」を設定し、学校復帰への支援を強化。 （２）問題を抱える子ども等の自立支援事業（266 千円） ①臨床心理士の武山雅志氏による保護者、教職員への指導助言を実施。 （指導助言　７件） ②学生ボランティア等７人が相談室等を通じて不登校児童生徒の学級復帰を支援。（支援　６８回） （３）心の教育相談員配置事業（1,005 千円） ①生徒等の悩み事の相談を受けるため、心の教室相談員３人を週３回各中学校に配置し、相談者に適切な助言を実施。（相談件数　４３４件） （４）共通道徳への取組 ①市内の小学校５年生と中学校２年生が郷土の偉人である西田幾多郎博士を取り上げ、石川県西田幾多郎記念哲学館を活用し、共通道徳授業を実施。 ②平成２１年度に市共通道徳推進委員会が作成した実践事例集及び指導資料集を道徳の授業に活用するとともに、「寸心読本」及び「西田幾多郎の伝記本」も道徳教育に活用。 （５）いしかわ道徳教育推進事業（200 千円） 県の指定を受け、学校の教育活動全体を通して、伝え合う力の育成に努めるとともに、「他の人を思いやる心」の大切さを中心に指導し、支え合える温かな人間関係を基本とした学校づくりを推進。 金津小学校（平成２５年度：県指定） 研究主題　「自己を見つめ　かかわり合いより良く生きていこうとする子の育成」 （６）人権教育推進事業（330 千円）

主な取組	①次代を担う子どもたちの豊かな心を育み、人権意識を高めることを目的として、劇団民話芸術座による民話劇「雨ふり小僧」を七塚小学校で実施し、また、津軽三味線奏者永村幸治氏による「演奏と講話・自分に強く人に優しく生きる」を宇ノ気中学校で実施。 ②国並びに県の指定を受け、人権尊重の感覚を育成することを意識した研究に取り組み、その成果を発表。 七塚小学校（平成２４～２５年度：国・県・市指定） 研究主題　「自ら学ぶ子どもをめざして」 副　　題　－学び合い、認め合う学習を通して－ 発 表 会　１０月２２日（火） （７）芸術鑑賞推進事業（1,055 千円） 子ども達に優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養を図るために実施。 ・オーケストラ鑑賞教室（アンサンブル金沢） 高松中学校 ・スクールシアター鑑賞 宇ノ気小学校及び金津小学校（低学年を対象） 劇団「うりんこ」による演劇「ぼくはにんじゃのあやし丸」 ・古典芸能鑑賞教室 七塚小学校及び外日角小学校（高学年を対象） 三味線・箏・日本舞踊

評価	教育支援センターの事業については、生活のリズムの再構築と学習支援が重点課題であり、各学期当初の「登校チャレンジ週間」の設定や毎月１回の「ステップアップ目標の設定」等で家庭や学校との連携強化を図り、不登校状況の改善を図ってきた。 また、通室生は４月の６名から３月の９名（途中解消者２名を除く）に増加する中で、看護大等の学生支援ボランティアの導入や地域ボランティアの活用により支援体制の充実を図ることができた。特に看護大生の学生ボランティアは、メンタルフレンドとして児童生徒達の心の支えとなり、効果的であったので継続していきたい。

<table>
<tr>
<td>評
価</td>
<td>
《平成２２年度以降の市内小中学校不登校生の推移》
<table>
<tr><td>平成２２年度</td><td>４９名</td></tr>
<tr><td>平成２３年度</td><td>４９名</td></tr>
<tr><td>平成２４年度</td><td>３８名</td></tr>
<tr><td>平成２５年度</td><td>３８名</td></tr>
</table>
《毎年３月末現在》

道徳指導において、本市出身の哲学者である西田幾多郎博士を取り上げ、博士の生き方に学び、共感することにより児童生徒の道徳心を涵養することは、心の教育の一環として有効であり、今後も全ての小中学校の児童生徒を対象に共通道徳として継続して実施していきたい。また、共通道徳の実践によって将来の夢や希望を持つ児童生徒の割合が増加傾向にあることから、今後も実践的な道徳教育を実施していきたい。
平成２５年度については、金津小学校が「いしかわ道徳教育推進事業」の指定を受け、道徳の授業と他の活動との関係づけをより一層図り、道徳性が高まる取組を計画的・継続的に実施することで道徳的実践力の向上がみられた。また、保護者や地域の人から学ぶ活動を継続して展開することによって、価値理解や自己理解の深まりを図ることができた。
芸術鑑賞推進事業については、次代を担う児童生徒にとっては、生きた本物の芸術を鑑賞することで、豊かな心をはぐくみ、思いやりの心を涵養することができた。
</td>
</tr>
</table>

４　学校安全対策の向上と学校施設の整備

◆ 取組の方向

・安全教育の充実　　・交通安全教育の充実　　・学校施設の整備

主な取組	（１） 防災ハンドブックの作成（98 千円） かほく市学校防災マニュアルとして、持ち歩けるサイズの防災ハンドブックを３００冊作成した。また、市内小中学校においても、それぞれの学校の実情に則した学校防災マニュアルを策定。 （２）生徒通学用安全着補助事業（286 千円） 通学時の安全性を向上させるため、自転車通学を行う中学校生徒に対し、ヘルメット（１０４人分)、ベスト（１００人分）の購入費用の一部を補助。 （３）スクールバス運行事業（28,875 千円） ①遠方から通学する児童の利便性並びに安全確保を図った。また、校外活動などの学校行事、各種大会などへの児童生徒の送迎にもスクールバスを活用。 ②スクールバス（新化号）を更新。 （４）安全・安心のための取組 ①各小中学校において、登下校に関する児童生徒の安全確保のため、地域住民やＰＴＡの協力による学校安全ボランティアなどの活動により登下校時の安全を確保。 また、小学校・中学校において、通学路の安全点検をＰＴＡ・道路管理者・交通管理者・学校関係者にて実施し、対策案を検討・作成。 【 危険箇所　７箇所　　対策済　３箇所　　Ｈ２６対策予定　４箇所 】 ②「いいメールかほく」内の学校情報メールを活用し、保護者に対して必要な学校情報を随時発信し、安全等の迅速な情報を提供。 （５）学校施設等整備事業 ①高松小学校整備事業（715 千円） 平成２６年度から実施する体育館の非構造部材耐震補強工事に関する調査・実施設計を実施。 ②大海小学校整備事業（30,958 千円） 学校施設環境改善交付金を活用し、校舎トイレの洋式化と乾式化の工事

主な取組	を行った。また、平成２６年度から実施する体育館の非構造部材耐震補強工事に関する調査・実施設計を実施。 ③外日角小学校整備事業（20,126 千円） 学校施設環境改善交付金を活用し、校舎外壁の補修工事を実施。 ④宇ノ気小学校整備事業（823 千円） 平成２６年度から実施する体育館の非構造部材耐震補強工事に関する調査・実施設計を実施。 ⑤高松中学校整備事業（12,756 千円） 教職員用パソコンの更新を行い学習指導環境の向上や、女子教職員の更衣室改修工事を行った。また、市内中学校のＰＣ教室更新に併せ、タブレット型ＰＣを８台導入。 ・教職員用パソコン　２３台 ・タブレット型パソコン　８台 ⑥河北台中学校整備事業（29,327 千円） ウィンドウズＸＰサポート終了問題により、教職員用パソコンとＰＣ教室用パソコンの更新を行った。パソコン教室の機器についてはタブレット型ＰＣを導入。 ・教職員用パソコン　３１台 ・タブレット型パソコン　４１台 ⑦宇ノ気中学校整備事業（27,531 千円） ウィンドウズＸＰサポート終了問題により、教職員用パソコンとＰＣ教室用パソコンの更新を行った。パソコン教室の機器についてはタブレット型ＰＣを導入。 ・教職員用パソコン　３６台 ・タブレット型パソコン　４１台

評価	災害が発生した際、学校施設は市民等の安全を確保するため、かほく市地域防災計画で拠点避難場所に指定されていることから、避難所従事職員の役割分担や参集体勢、管理運営における学校としての協力体制等の行動及び対応手順を明確化するため、防

評価	災ハンドブックを３００冊作成して教職員へ配布した。また、市内９小中学校がそれぞれの学校の実情に則した学校防災マニュアルも策定した。今後、様々な災害を想定して行う防災訓練においてこれらを活用し、また同時に教職員の防災教育にも活用していきたい。 自転車通学をする高松中学校と宇ノ気中学校の生徒に、交通事故防止のためのヘルメットと反射ベスト購入補助を行った。また、高松小学校と大海小学校、宇ノ気小学校、金津小学校においては、５台のスクールバス運行によって遠方から通学する児童の利便性を確保するこができた。 地域住民による見守りを実施したことによって、児童生徒の登下校時の安全・安心が図られた。また、通学路の安全点検を実施することにより、ＰＴＡ・道路管理者・交通管理者間において、危険箇所の共通認識を行うことができ、道路のラインの引き直し等を行い、児童生徒の安全確保が図った。その他にも、「いいメールかほく」を活用して多くの学校情報の発信を行い、児童生徒の安全安心に役立てることができた。今後も、児童生徒の安全を確保するための創意工夫を図っていきたい。 学校施設整備については、安全・安心な学校づくりとして、老朽化により劣化が激しい外日角小学校の外壁補修工事により安全な学校整備を図るとともに、大海小学校では校舎内トイレの洋式化と乾式化を行い学校施設環境の向上を行った。また平成２６年度より実施予定の小中学校体育館非構造部材耐震補強工事の調査・実施設計を行った。今後も順次老朽化等に対応する工事を行う必要があり、年次的な計画を持って実施していきたい。 ＩＴ関係では、高松中学校職員室のパソコン機器が老朽化のため、機器を更新した。 また、河北台中学校と宇ノ気中学校では、ウィンドウズＸＰのサポート終了に伴うパソコン機器の更新を行った。それに伴いパソコン教室の機器をタブレット型ＰＣに更新し学習環境の更なる向上を図った。 さらに、新たに購入した電子黒板や書画カメラとも連動させた多目的な活用を行い、高い質の授業や内容充実のため、ＩＣＴ教育を推進していきたい。

イ）　その他の取組

主な取組	（１）　かほく市教育振興基本計画の策定 平成２０年に国の「教育振興基本計画」が策定され、平成２２年度には県の「石川の教育振興基本計画」が策定された。それに伴い、かほく市としても教育委員会をはじめとする多くの検討・審議を重ね、また、市民からも広く意見を聴く「パブリックコメント」を経て市長に建議し、平成２５年１１月に「かほく市教育振興基本計画」を策定。 （２）　教育委員訪問と指導主事訪問の共同実施 教育委員の学校訪問と、前期・後期の２回行っていた指導主事訪問の前期を共同実施とし、教育委員と指導主事が連携して指導助言を実施。 （３）学校評価の実施 各学校の目標達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価することにより学校として組織的・継続的に改善を行った。また、学校便りや学校評価の結果などをホームページにて掲載。 （４）学校支援委員会の設置 地域の有識者による学校支援委員会を全ての学校に設置し、学校運営に関して助言等を行うことによって学校を支援。 （５）要・準要保護児童生徒就学援助事業（21,499 千円） 経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒３１７人の保護者に対し、学校に係る費用の一部を援助した。また、その他に東日本大震災にて避難された世帯の児童生徒５人も対象として、学校に係る費用の一部を援助。 （６）特別支援教育就学奨励費補助金（924 千円） 特別支援学級に就学する児童生徒２１人の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育に資する費用の一部を助成。 （７）幼児教育補助金（19,418 千円） ①保護者の負担軽減のため、所得に応じて幼稚園就園奨励金を１４８人に交付。 ②幼児教育振興のため、市内私立幼稚園２園（木津幼稚園、うのけ幼稚園）に対し運営補助金を交付。

主な取組	（８）育英奨学補助金（1,257 千円） 経済的事情により就学が困難な高校生１３人に対し、奨学資金（8,000 円／月）を支給。 （９）学校図書館司書の配置（10,981 千円） 全小学校に学校図書館司書５人（うち１人は大海小学校と金津小学校を兼務）を配置し、年１５回の図書館司書研修会で共通理解を図り、子どもたちの読書生活を豊かにするとともに課題解決学習などの有効活用を促進した。また、図書館司書を週１回中学校へ派遣し、生徒の読書活動の支援。 (10) 市学校教育研究会（830 千円） 教職員が教育課程研究部会などの８部会を組織し、学校教育のあり方などについて研究し、教職員研修会等の実施により本市の学校教育の向上を推進。 (11) 小学校英語活動及び中学校英語教育の充実（14,530 千円） ①市内小中学校の英語活動及び英語授業を推進するため、外国青年招致事業によるＡＬＴ（外国語指導助手）３人を配置。 ②ＡＬＴ（外国語指導助手）の授業力向上のためにＡＬＴ研修会（４回）を開催した。金沢教育事務所の泉智一指導主事を講師として招き、今後の現場での実践に生かせるよう授業実践研修と英語での講話を実施。 ③かほく市外国語活動研修会に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の直山木綿子氏を講師として招き、外日角小学校を会場に示範授業と講演会を開催。 (12) 学校版ＩＳＯ推進事業 いしかわ学校版環境ＩＳＯ認定を受け、全ての小中学校にて環境行動計画に基づく地球温暖化防止に係る環境保全活動を実施。 (13) 大会出場派遣事業（8,804 千円） 県大会、北陸信越大会、全国大会などに出場する中学校の部活動に対して交通費等を補助し、部活動の振興を支援。 (14) 食育教育の推進 児童生徒の食に関する知識と食を選択する力を育成するために、給食便りの発行や栄養教諭などによる食育教育の推進に加えて、児童の稲作体験、かほっくりの定植や収穫、紋平柿の収穫や脱渋などの農業体験を行うとともに、生産者との交流会なども実施。

主な取組	（15）学校給食事業（335,748 千円） ①成長期にある児童生徒にバランスのとれた安全・安心な食事を供給。 （３，２４５食／日） ②平成２５年度から給食センターの長寿命化計画に基づき、厨房施設の更新を行い、初年度は食器洗浄機の取替えを実施し、安定した給食の供給を推進。 ③一般公募した市民３０名を対象とした試食会の開催や地産地消への取組として地元産材の活用を行った。米飯給食は、かほく市瀬戸町、鉢伏産コシヒカリ一等米を提供した。さらに、パン給食に米粉パンを毎月１回提供。

評価	教育委員訪問と指導主事訪問の共同実施については、１年に前期と後期の２回行っていた指導主事訪問の前期訪問に教育委員が出会し連携した指導助言を行った。また、これまで１日３校回っていたものを１日１校とし、ゆとりある指導訪問としたことで授業を参観後、学校管理職をはじめとする教職員から十分説明を聞いたうえで、多岐にわたる指導助言が可能になり、充実した指導訪問が展開できたことから、今後もこの実施方法で継続していきたい。 経済的理由で就学が困難な児童生徒に対して、必要な援助を行うことによって円滑な義務教育の実施を図ることができた。特別支援教育に係る補助も含めて安定した就学の保障を行うことは、教育の機会均等の精神に基づくものであると捉えていることから、今後も継続して実施していく必要がある。 幼児教育補助金の交付により、安定した私立幼稚園等の運営を支援し、幼児教育における振興及び充実を図ることができた。保護者のニーズに応えて保育園・幼稚園の選択ができる環境を今後も維持していくためにも必要である。 平成２２年度から高等学校の授業料無償化が始まったが、市内には高等学校がないことから、必ず必要となる通学費に加え、学用品等の負担もあることを考慮して育英奨学補助金制度を継続してきた。これにより市内の有用な人材が高等学校等へ就学する支援ができたと考えている。また、受給者は受給の要件である学業成績の維持にも努めることとなり、修学における向上も図ることができた。 子どもの読書活動を推進するためには、図書館司書の役割が重要であり、資料の収集や整理を行い、レファレンス活動を推進するとともに、市立図書館との連携、司書研修などの充実に努めた。小学校の図書の貸出冊数は、平成２４年度が貸出冊数 176,906 冊に対して、平成２５年度が貸出冊数 176,293 冊とほぼ横ばいであるが、今後も引き続き、子どもの意欲的な読書活動を促進していくために継続していきたい。

評価	また、通常小学校に配置している司書を週に１日、定期的に中学校へ派遣することによって、中学校における読書環境や購入本の充実、図書館便りを発刊によって、中学生の読書に対する関心も高めることができた。 外国語活動においては、児童へ音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、異国の言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢・能力の素地を養うことを目標として様々な活動を推進するために一層の充実を図っていく。 大会出場派遣事業については、県内の大会はもちろん、平成２５年度においては北信越大会以上に出場した１８部活動の大会出場に伴う補助を行った。そのうち、河北台中学校吹奏楽部と高松中学校吹奏楽部が第１３回東日本中学校吹奏楽大会に出場し、それぞれ金賞と銅賞、そして河北台中学校は第５６回中部日本吹奏楽コンクール大会にも出場し金賞といった素晴らしい成績を収めることができた。日頃の練習の成果を発表・試す機会の支援を今後も引き続き行っていきたい。 かほく市食育推進計画に基づき、他部局とも連携し、学校現場で様々な食育推進に資する事業を行うことができた。 学校給食においては、食の安全に細心の注意を払いつつ地産地消の取組も推進することができた。今後も学校給食を通じて児童生徒の食に関する適切な判断力や地域の特産物・食材についての認識を深めながら、健康で豊かな人間をはぐくむ基礎となる取組を推進する必要がある。 また、食物アレルギーのある児童生徒に対し十分な配慮を行うため、入学・進学前に食物アレルギー調査を行なった。保護者、主治医や学校医等とも連携を図り、教職員全員が食物アレルギーに関する正確な知識と共通理解のもと、食物アレルギーをもつ児童生徒に必要な配慮を行うことができ、児童生徒の安全確保並びに安全な給食供給に資することができた。

≪生涯教育目標≫

個々が生きがいを持ち、共に学びあい支えあう生活を目指す

【生涯学習課： 生涯学習係・文化振興係・図書館係】

ア） 重点事項としての取組

１　地域人材の育成と地域活動の活性化

◆ 取組の方向

・公民館（地域）活動の活性化　　・人材育成事業の拡充

・学校支援ボランティア事業の推進

主な取組	（１）地域公民館への補助金の交付（3,025 千円） 七塚・宇ノ気地区の各地域を対象とする公民館活動を支援するため、運営費補助金を交付。 ・地域づくり推進事業補助金（１６件） （２）地域交流事業の実施（6 千円） 地域の連帯の強化、地域力の向上を図るための交流会を開催。 ・七塚地区市民交流大会（グラウンド・ゴルフ大会） ・宇ノ気中学校区市民交流大会(ビーチボールバレー大会) （３）かほく市地域づくり人材育成講座の開催（517 千円） 地域活動の活性化につなげるための人材育成講座を開催。 (応用編) 期　　間：６月４日、１８日、７月２日 市民ミーティング　７月９日 会　　場：かほく市役所 内　　容：実習（ワークショップ）、講義、事業企画書の作成 講　　師：㈱御祓川　代表取締役　森山奈美　氏 (初級編) 期　　間：９月１８日、１０月１６日、１１月１３日 成果発表会　１２月１１日 会　　場：かほく市役所 内　　容：実習（ワークショップ）、講義、事業企画書の作成 講　　師：金沢大学特任助教　西村　貴之　氏

主な取組	（４）地域ぐるみの学校支援推進事業（200 千円） 地域ぐるみで学校教育を支援するとともに、地域の教育力の向上を図るための取組として展開。 学校支援ボランティア人材の登録・整理を行うとともに、学校からの支援要望に応じて、登録人材による支援活動を実施。 （５）地域活動補助金の創設・交付（568 千円） 市民と行政のパートナーシップによる魅力ある生き生きとしたまちづくり活動の推進を目的として、かほく市のまちづくりに貢献する自主的かつ主体的な事業を実施する市民団体等に対して「かほく市地域活動補助金」を交付。 （交付実績）５団体 ※うち２団体の事業は、地域づくり人材育成講座（応用編）にて、事業化されたもの。 ①楽しく歌う会＜絆＞による「日本の歌１０１曲マラソン」 ②かほく市箏曲育成会による「お箏でキラキラ　邦楽ワークショッププロジェクト」 ③ワクワク健康サークルによる「健康づくりキャンペーン２０１３」 ④高松歴史街道フェスティバル実行委員会による「鶴彬を顕彰する市民川柳大会」 ⑤食べるの大好き‘えびすの会’楠亭による「寒天菓子 子ども創作コンテスト」

評価	地域づくり推進事業補助金を活用して、地区文化祭や運動会、花いっぱい運動、伝承芸能活動など地域主体の活動が展開された。また地域交流大会では、七塚地域で約１１０名、宇ノ気地域で約１３０名の参加があり、大会を通じて地域住民の交流が図られ、地域の連帯力の強化、地域の絆をはぐくむ効果があった。 地区における社会教育団体組織の縮小や活動の低下が表面化したことを受け、組織や活動を支える人材の育成を目的として、昨年に引き続き地域づくり人材育成講座を実施した。地域組織の人材養成や活動の活性化に直接的には未だ結びついていないが、地域を考え何か新たな取り組みを進めようという気概は生まれてきている。講座を通じてつながった人々による集い「まちづくり部」が生まれた。今後も継続的に講座を開催し、地域に関心を持つ人材を更に増やすことが必要である。 地域ぐるみの学校支援推進事業の取組については、広報紙やボランティアだより、ホームページ掲載等の啓発活動により市民に認知されてきた。今後も市民に対し活動を周知し、取組への参加を広げ地域の教育力の向上につなげていく必要がある。なお、

評 価	本事業をより効果的に進めるためのコーディネート人材が不足していることから、組織的な取組の対応が求められている。 　平成２５年度創設した地域活動補助金は、５名以上のグループによるまちづくり活動に上限２０万円を補助するもので、文化の継承、健康づくり等の５件の事業に対して交付した。市民主体による新たな取組や活動の実践を促す効果があったと考えており、市民と行政のパートナーシップによる地域活動の創出に向けた意識付けのきっかけと捉えている。

２　学びの機会の充実

◆ 取組の方向

・市民講座事業の展開　　・学習情報の発信

・郷土学習事業の充実

主な取組	◇学びの機会として、各種講座を開催。 （１）かほく市民大学講座（165 千円） 開催時期：５月～翌年３月 開設講座数：前期１２講座、後期１０講座　計２２講座 受講者数：前期４４５名、後期９０９名　　計１，３５４名 （２）出前講座（講師は市職員） 開催時期：４月～翌年３月　　講座メニュー数：４０講座 実施回数：３７回　　延べ参加者数：１，１２５名（平均３０名） 会　　場：市内の公共施設、地区集会場等 （３）市民教養講座（一般対象の趣味的講座）（111 千円） ・ボディジュエリーアート講座　２回 ・金沢の伝統工芸【水引工芸】講座　１回 ・コーヒーとのフードペアリング講座　２回 ・タロットリーディング講座　２回 ・アートセラピー講座　２回 ・体も心も楽になる呼吸法講座　１回 ・どんな人でもうまくいく会話術講座　２回 ・持ち味カードを使って自分力ＵＰ！講座　１回 ・筆ペンアート講座　１回 ・ハーブボールでセルフケア講座　１回 ・スマートフォン講座　２回 ・楽しい筆遊び＆フラワーアレンジメント講座　２回 （４）女性教養講座（女性対象）（86 千円） ・ボディメイクヨガ講座　２回 ・布ぞうり作り講座　２回 ・パーソナルカラー講座　２回 ・タイルクラフト講座　２回 ・自宅でできるリンパマッサージ＆引き締めエクササイズ講座　２回 ・とってもかんたん♪ナプキンデコパージュ講座　１回 ・ベビーマッサージ講座（夫婦対象）　２回

主な取組	（５）小学生や親子対象教室（261 千円） ・子ども煎茶教室（小学生対象）　１１回 ・子ども太鼓教室（小学生対象）　１５回 ・子どもお箏教室（小学生対象）　３３回 ・子どもパステルアート教室（小学生対象）　１１回 ・親子望遠鏡づくり教室（親子対象）　１回 ・親子トンボ玉作り教室（親子対象）　１回 ・夏休み教室（小学生対象・親子対象）　３回 ◇生涯学習活動の成果発表の場を開設し、活動情報を発信。 （１）第１０回生涯学習フェスティバル（3,144 千円） 期　　間：１０月２６日（土）・１０月２７日（日） 会　　場：河北台中学校講堂、河北台健民体育館など 内　　容：芸能発表会、各種展示会（体験コーナー） フリーマーケット、図書館まつり 記念講演：講師　渡辺えり　氏 演　　題：「歩いてきた道、歩いていく道　～舞台に恋して～」 ※併せて市健康まつり（健康福祉課主管）を開催 （２）「市民ギャラリーうみっこ」における展示会　２８回 （３）市内文化活動紹介チラシの配布 ◇郷土を知り学ぶ事業の開催。 （１）西田幾多郎に係る講座等（635 千円） ・西田幾多郎哲学講座　全１０回＋野外学習１回 ・寸心読書会　全１２回 ・入門講座「ゆっくり読む『善の研究』」　全　７回 ・市内小中学校「共通道徳」実施　小学校６校（5 年生）、中学校３校（2 年生） （２）海と渚の博物館を活用した資料見学会 小学校４年生社会科「昔のくらし」の学習にあわせて、市内６小学校の４年生の見学会を受入。 （３）歴史体験教室（114 千円） 市内小学校への出前講座（６年生対象）　５校 弥生土器の製作、土器野焼き、火起こし、赤米試食、貫頭衣試着等

評価	趣味的教養講座、女性対象講座、子ども対象講座、市職員による出前講座のほかに、新たに市民大学講座を開催し、市民の学習意欲の向上と学習機会の拡充、学びによる交流の輪の拡大を図った。市民大学講座については、ほとんど全ての講座を受講した市民もおり、学習による生活の充実が図られているものと捉えている。今後も幅広い内容の講座を開催し、引き続き市民の学習ニーズに応えていく必要がある。またテーマによっては、専門課程の開設も検討していく必要がある。 生涯学習フェスティバルや市民ギャラリーうみっこでの展示を通して、学習活動の成果を発表してもらい活動情報の発信につなげた。加えて体験コーナーによる活動ＰＲを行なった。成果発表や情報発信は、学習意欲の向上と学びの拡大につながるものと捉えており、今後も継続的に実施する必要がある。 西田幾多郎に係る各種講座のうち、平成２１年度から継続している「共通道徳事業」（市内の小５と中２が対象）や市内学校への出前講座によって、児童生徒の「西田幾多郎」に対する理解が深まり、郷土の偉人としての意識を高めることにつながっていると捉えている。 「海と渚の博物館」での民俗資料の見学会や学校での歴史体験教室は、自分たちが住んでいる地域の近現代や古代のくらしの学習と理解につながっていると捉えており、また文化財の教材活用という点においても意義がある。 郷土の「偉人」や「文化財」を活用した事業の展開により、郷土の歴史や風土を理解するとともに、郷土愛をはぐくむ効果があった。

３　読書環境の充実と読書活動の推進

◆ 取組の方向

・学校図書室と公共図書館の連携促進　　・「市民読書の日」の啓発

・図書館サービスの向上

主な取組	（１）図書館連絡会 図書館職員と学校図書館司書による連絡会を開催。　計１５回 （２）学校図書室への本配送サービス 火曜～金曜日、各学校（学校図書室）から貸出希望のあった図書資料を配送。 配送数：４，８８８冊 （３） 低学年向け読書日記（166 千円） 児童の読書活動を促進するためのツールとして、学校図書館司書との連携により、低学年向けの読書日記を作成・配布。　印刷部数 １，５００部 （４）学校授業での図書館活用 小学校３年生の国語の授業で図書館を活用（６小学校）。 （５）市内保育園・幼稚園の招待お話会 市内全保育園と幼稚園の園児を招待し、お話会と館内見学を実施。身近な図書館としての利用促進をＰＲ。 国際交流員によるドイツの絵本の読み聞かせを実施。絵本を通して国際交流意識を啓発。 （６）「市民読書の日（毎月２３日）」の啓発（254 千円） 毎月２３日前後の日曜日に「市民読書の日」事業を実施。 ・アフタヌーンコンサート（１２回） ・朗読講演会（１回） ・講演、講座（５回） 図書館標語の募集、最優秀作を広報やイベントチラシで活用。 （７）シャトルバス〔宇ノ気 ⇔ 中央図書館 ⇔ 高松〕（333 千円） 毎週日曜日に運行。

評価	中央図書館と学校図書館司書の連携により、低学年用読書日記の作成と活用、小学校３年生の国語授業による中央図書館の活用、学校図書室への配本サービスの実施などの事業が展開できた。 読書日記は、学校における読書活動にも利用されており、読書への興味関心を高め、読解力の向上、達成感の醸成、心の成長に資する等、読書活動の促進や健全な成長の一助として有効に活用されている。また、小学校３年生の国語の単元「本は友だち」の授業における中央図書館の利用は、図書館周知と保護者との来館促進に効果があった。今後も緊密な連携により、児童生徒の読書活動の推進に取り組んでいく。 「市民読書の日」啓発事業や図書館標語募集事業を通じて、市民読書の日の周知と図書館利用の促進を図った。年間の貸出人数や貸出冊数が前年度とほぼ同様な数字を示した一方、入館者数は前年比で１８％の増加となったことから、利用促進の効果があったものと捉えている。単なる本を借りる場所ではなく、活字に気軽に親しみ過ごす場所として、滞在型図書館としての機能を発揮することができた。 シャトルバスの運行については、平成２４年度の利用実態を踏まえて平日（火曜～金曜）運行から日曜日運行に変更した。運行日数５０日に対して、宇ノ気－中央図書館の利用が延べ２９名、高松－中央図書館の利用が延べ９７名であり、低い利用率となった。平成２６年度も運行が継続されているが、その状況を踏まえて運行の是非を検討する必要がある。 今後も、多様化する市民ニーズに対応した運営をめざし、サービスの向上に取り組みながら、より多くの市民に利用いただける図書館となるよう努めていく。 事業面では、特に児童生徒の読書活動の推進に引き続き取り組む。

４　市民憲章推進活動の促進

◆ 取組の方向

・市民憲章の周知　　・具体的実践活動の実施

主な取組	（１）各種会議等での市民憲章の唱和 市女性会総会、市各種女性団体連絡協議会総会、市生活学校連絡会総会 市子ども会総会、市体育協会総会、市文化協会総会 市女性意見発表会、市政座談会、少年愛護センター愛護員会議 成人式、立志式 （２）「交通安全・あいさつ運動」の展開 職員が中心となって、毎月１日、１５日に実施。（延べ２４回）。 （３）「早寝　早起き　朝ごはん運動」の展開 講座の開催（市民大学講座）。 市スポーツ少年団活動や子ども会活動での呼びかけ。 （４）国旗掲揚の啓発 市広報に掲載。

評価	市民憲章（H17.11.3 制定）については、各種会議や式典等で唱和を行なうことにより、周知がなされてきている。他の所管に係る総会や会議等でも唱和が行なわれていることから、少しずつではあるが市民への周知が広がっているものと捉えている。また一方、周知活動の地道な継続が今後も必要である。 「交通安全・あいさつ運動」については、秋のグッドマナーキャンペーンとも連動して各種団体の協力も得ながら実施しており、運動は定着してきている。 「早寝　早起き　朝ごはん運動」については、各種団体や学校・地域との一体的連携による運動を更に進めていく必要があると考えており、特にスポーツ少年団については、活動終了時間の繰上を引き続き呼びかける必要がある。 郷土愛をはぐくむ手立てとして、「国旗掲揚運動」を新たに展開した。広報かほくに祝日の由来とともに国旗の掲揚を促す記事を掲載した。祝日の国旗掲揚については、未だ十分とはいえない状況であるが、今後も引き続き地道に啓発活動を展開し、国旗掲揚意識の高揚を図っていく必要がある。 一連の取組は、規則正しい生活リズムや習慣を身につけ、健やかな子どもたちをはぐくむために必要な取組であり、地域、学校、家庭と連携して継続する。

イ） その他の取り組み

主な取組	（１）各種団体への補助金の交付（6,974 千円） 市内１１の団体組織に社会教育的活動を支援するため補助金を交付。 （主な交付団体） 文化協会、子ども会、女性協議会、各種女性団体連絡協議会 ＰＴＡ連合会、国際交流協会、生活学校連絡会、読書会連絡協議会、 日本ボーイスカウトかほく第１団、七塚壮年団連絡協議会、 紙ヒコーキ大会 in かほく実行委員会 （２）式典の開催（929 千円） ①成人式 成人の日を記念して新成人者が社会の一員となったことを自覚し、人として有意義な人生を歩んでいく決意を持って実社会へ門出ができるように祝い励ますことを目的に成人式を開催。 期　日：１月１２日（日） 場　所：河北台中学校講堂 対象者：４１９名（うち参加者　３２４名） ②立志式 自分の将来に夢や希望を抱き、志を立て、目的意識をもった生き方を考える機会として、立志式及び記念講演会を開催。 期　日：１月３１日（金） 場　所：河北台中学校講堂 対象者：３６１名（市内３中学校の２年生） 内　容：各学校生徒代表による意見発表 講演会：講師　フリーアナウンサー　横田　幸子　氏 演題　「あなたが変われば未来が変わる」 （３）各種施設の管理運営 次の各種施設の管理運営を実施。 ①地域公民館の修繕事業（3,066 千円） 指江公民館　：　図書室の床張替とドア取替 宇野気公民館　：　トイレ改修 白尾公民館　：　大ホール建具修繕 ②女性センターの管理運営（241 千円） 女性センターは５月に閉館。利用団体は増築された高松産業文化センターで活動を継続。 ③七塚及び宇ノ気生涯学習センターの管理運営　（22,116 千円） 施設の適正な維持管理を行うことにより、安心して安全に利用できる学習活動の場を提供。

主な取組	④中央図書館の管理運営　（33,146 千円） 読書環境の充実と読書活動の推進を図るため、各種事業を展開。 「市民読書の日」の啓発事業を実施し、あわせて関連図書を紹介。 広報紙・ケーブルテレビ・ホームページなどを通じておすすめ本や新刊情報を発信。 〔年間利用状況〕 ・入館者数　　１３３，３７１人　（対前年比 18%の増加） ・貸出人数　　５０，５７６人 ・貸出冊数　　２５３，１４０冊 〔図書資料など購入数〕 ・図書資料　６，１３７冊　　・視聴覚資料　５５点 〔主な事業〕 ・手作り絵本教室（２回シリーズ） ・図書館まつり（生涯学習フェスティバルにあわせて実施） ・子育て支援センター、保育園児、幼稚園児の招待お話し会（計 47 回） ・ブックスタート　（22 回） ・おはなし会　毎月１回 ・読書カフェ（４回） ・絵本で楽しむクッキング（３回） ・開館２周年記念イベント（絵本ライブ） ・ボランティア人材養成講座（４回） ・かほく市図書館運営協力者会議（２回） ・図書館友の会の活動 発　足　H24.6.3　会員数１１６名 活動内容 ・毎週火曜日　返却ボランティア作業 ・古本朝市（市民読書の日事業に開催） ⑤西田幾多郎記念哲学館の管理運営（41,513 千円） 石川県西田幾多郎記念哲学館及び西田幾多郎書斎「骨清窟」の適正な維持管理を実施。 西田幾多郎に関する資料の展示並びに哲学に関する企画展、講演会及び講座を開催、哲学をテーマとした学習機会を提供。 （年間利用状況） ・入館者数　２７，５４７人（うち展示室観覧者数　7,317 人） 〔主な事業〕（一部再掲） ・西田幾多郎哲学講座　全 10 回＋野外学習１回 ・寸心読書会　全 12 回 ・入門講座「ゆっくり読む『善の研究』」　全７回 ・哲学カフェ　全 19 回

	・機関紙「哲学館ニュース」発刊（第 18・19 号） ・雑誌『点から線へ』発刊（第 62・63 号） ・哲学館ギャラリーの開放（ホワイエ・展望ラウンジの利用日数） ホワイエ　11 日、展望ラウンジ　39 日　　※主催・貸館含む。 ・特別企画　テーマ「癒(いや)しのちからについて考える」 講演会　　全 3 回 映画上映会　　1 日（延べ 3 回） ・禅文化体験会　　1 回 ・映画上映会「エンディングノート」　　1 回 ・展示会「久世建二　土のかたち」 ・学習まんが『西田幾多郎』発刊協力 ・他館との連携事業 石川近代文学館：入門講座「ゆっくり読む『善の研究』」　　全 6 回 鈴木大拙館　　：友の会相互優待事業・事業共同開催（展示会・講演会） 京都大学総合博物館：西田幾多郎遺墨展　－黙より出でて黙に帰す－
主な取組	⑥総合交流促進施設（うみっこらんど七塚）の管理運営（16,779 千円） 漁具資料の見学開放、市民ギャラリーでの作品展示、キャンプ場及びバーベキュー場の提供により人々の交流活動を促進。 ・博物館展示室観覧者数　１０，１５０人 （うち市民ギャラリー入場者数　7,073 人） ・キャンプ場等利用者数　８，９０１人 （うちバーベキュー場利用者数　5,316 人） ・「市民ギャラリーうみっこ」での展示会 さかながいっぱい展 2013、　市書道協会展 、　私の作品展 写真愛好家 50 人＋α展 、　押花アート合同展、　バラのコサージュ展 ＰＦＵ社友会作品展、　かほくひょうたん展、　市生け花協会展 ＭＯＡ美術館児童作品展、　パステルアート展、市絵画愛好会グループ展 （４）男女共同参画社会推進事業（252 千円） 各種啓発事業を行い、男女共同参画社会に対する意識の高揚と理解を促進。 ①石川中央広域圏協議会連携事業 期　　日：１１月３０日（土） タイトル：「夢を叶える自己分析セミナー～ワーク・ライフ・バランスについて考えよう」 講　　師：麗澤大学経済学部教授　木谷　宏　氏 会　　場：金沢市　金沢学生のまち市民交流館 内　　容：シューカツ応援講座として講演及びワークショップ、相談ブースの開設

主な取組	②かほく市民大学講座　　１講座（男性と女性の特性について） ③いしかわパープルリボンツリーキャンペーン（DV 防止活動） 宇ノ気生涯学習センターにパープルリボンツリーを設置 （５）少年愛護センターの運営（1,811 千円） 少年愛護指導員と少年愛護員６０名が指導巡回を実施。有害環境浄化や青少年の健全育成に尽力。 ①巡回補導 少年愛護指導員（月～金　１５：００～１７：００） 少年愛護員　　（年間１６回×３地区　１９：３０～２１：００） ②青少年健全育成に関する啓発活動 標語の募集と看板設置、啓発チラシ発行、広報紙「ふれ愛」発行 （６）国際交流事業（7,872 千円） 姉妹都市メスキルヒ市（ドイツ）との交流事業により異文化理解を促進。 国際交流員と市国際交流協会の連携による国際理解教室及び語学教室等を開催。 ①国際交流員の配置 ＣＩＲ（国際交流員）１名を配置し、園児から成人を対象に異文化理解教育を推進。 ②姉妹都市交流事業 ＜メスキルヒ市青少年訪問団の受入＞ 受 入 団 員：１９名（中学生 17 名、引率者２名） 受入ホスト：１５家族 期　　間：１０月２１日（月）～１０月３０日（水） ＜かほく市民交流団のメスキルヒ市訪問＞ 訪 問 団 員：１０名（成人）　　※国際交流員が同行 期　　間：２月２５日（火）～３月５日（水） ③映画上映会及び交流会の実施（市民大学講座扱い） 日　　時：６月２９日（土）１３：３０～ 場　　所：七塚生涯学習センター 題　　名：マーサの幸せレシピ ④第 26 回 JAPAN TENT かほく市プログラム 市国際交流協会に委託して、かほく市プログラムを実施。 受入留学生：１７名（１５カ国） 受入ホスト：１０家族 期　　間：８月２２日（木）～２５日（日）

主な取組	（７）文化財保護事業（6,591 千円） 市指定文化財の保護・管理、文化財の保存・公開等を通じて市民に対し文化財保護を啓発。地域の歴史や文化に対する理解促進と郷土意識を高揚。 国指定史跡上山田貝塚の部分修繕を実施。 （主な事業） ・文化財保護審議会の開催　３回 ・市指定文化財（天然記念物）の樹木診断　１回 ・上山田貝塚、大海西山弥生の里等の管理（芝生管理、樹木管理） ・文化財展示コーナーの設置（中央図書館・高松産業文化センター） ・かほく市指定文化財シイノキの保護措置 ・上山田貝塚保存整備工事（国庫・県費補助事業） （園路修繕、南貝塚保護修繕、展望台補修） （８）文化振興激励費の支給（55 千円） 全国高校総合文化祭等の出場者に激励費を支給。 対象者：１１名 （９）その他の事業 ①クリスマスコンサート 期　日：１２月２３日（火） 会　場：石川県西田幾多郎記念哲学館　哲学ホール 内　容：オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーによる弦楽四重奏 入場者数：大人１６４名、中学生以下５名　（計１６９名） ②天体観望会（天体望遠鏡活用事業） 開催時期：５月～１１月、毎月第２・第４土曜日 参加人数：各回１０名程度 ③かほく市囲碁将棋大会 期　日：１２月８日（日） 会　場：高松産業文化センター 参加人数：囲碁３６名、将棋１６名（計５２名）

評価	成人式・立志式は、次代のかほく市を担う青少年を祝福し、大人としての自覚を促す大切な事業であり、個々の将来とふるさとかほく市を考える節目の行事としても重要視している。

評価	成人式については、石川県立看護大学の県外出身（住民登録はかほく市）の学生が出身地の成人式に出席することもあり、高松地区では対象者の６６．９％の参加率と低くなっているが、市内３中学校の卒業生の参加率は、８６．５％と高い数字を示しており、市全体での参加率は７７．３％であった。ふるさと「かほく市」を再認識し、かほく市への愛着を高める機会になっているものと捉えている。今後も高い出席率となるよう努めていく。 西田幾多郎記念哲学館では、入門者・初心者向けの「入門講座」、中級者・上級者向けの「西田幾多郎哲学講座」、じっくりと哲学書を読み進める「寸心読書会」を開催した。それぞれの講座でターゲットとなる利用者層を変えることを心がけて企画している。また、講座終了後に喫茶室で講師を囲んで哲学について討議する「哲学カフェ」は、講座参加者と講座講師が気軽に討論できる場として好評を得ている。 また、「特別企画」は、哲学に興味がある人はもちろん、哲学に興味がない人たちをも哲学館に呼び込むことを目的として実施しており、平成２５年度は〔癒しのちから〕をテーマとした。上田紀行氏による『癒しから創造へ』、志水哲雄氏による『音楽療法の可能性』、諸富祥彦氏による『カウンセリングと癒し』の３つの講演会と映画上映会を開催した。総勢約５００名の参加を得ており、満席となるような盛況さは無いものの堅いニーズのある講座として今後も継続したい。 鈴木大拙館との交流協定事業として、片方の博物館の入場券の半券でもう片方の博物館へ無料で入館できるという入場優待事業（平成２３年度から継続）、両館協力による企画展示や講演会、講師の相互派遣事業を行った。観光都市金沢市の大拙館との連携により、哲学館のＰＲや来館者増加の効果があったものと捉えている。 平成２４年度のかほく市子ども議会での提案を受け、学習まんが『西田幾多郎』の刊行に向けて取り組んだ。西田幾多郎の生涯と思想をわかりやすく描き、小学生から読めるようにストーリーで解説する学習まんがを監修し、平成２５年８月の子ども議会への出版発表に向けて協力した。学習まんが出版は、西田幾多郎の全国へのそして児童生徒への情報発信につながった。 利用状況では、対前年比で展示室観覧者数が１１％の増、喫茶室売上が２４％の増となった。マスコミによる西田幾多郎学習まんが出版記事の掲載や皇太子殿下の行啓、ホワイエ展示会への来場者の増などがその要因と考えている。平成２６年度に予定されている展示室のリニューアルによってさらなる来館者の増加をめざす。 総合交流促進施設（うみっこらんど七塚）では、「海と渚の博物館」における漁具資料の展示、市民ギャラリーコーナーの運営、加えてキャンプ場及びバーベキュー場などの運営により人々の交流活動を促進した。キャンプ場及びバーベキュー場の利用については、平成２１年度から４年連続の対前年使用料収入減となっていたが、平成２５年度は横這いの結果となった。今後も多くの方に利用していただけるようＰＲ活動の強化と工夫を図る必要がある。 男女共同参画社会基本法に基づき男女共同参画社会の実現をめざして市民の意識啓

評価	発に向けた講座、講演会、広報活動に取り組んだ。今後も参加しやすい環境を整えて参加者の増加を図り、意識の啓発と向上を進めていく必要がある。 講座参加者のアンケートでは、「男女共同参画社会について理解している」という割合が６割となっている。アンケート提出者の年代や性別に偏りがあるため、あくまで参考的データであるが、今後も同割合が高まるよう取組を進めていく。 少年愛護センターとして、日々の指導巡回や定例の指導巡回などにより青少年非行の未然防止や青少年の安全確保に取り組んだ。今後も巡回コース・時間帯・回数などについては、状況を踏まえながら検討し、警察との連携を図りながら引き続き青少年の保護と健全育成に取り組んでいく。 なお、スマートフォンなど情報媒体の変革と情報の氾濫は、青少年を取り巻く環境の悪化を招いており、青少年を守り健全にはぐくむ市民意識の高揚を図ることが必要である。今後は特に情報媒体の利用について、青少年や保護者に対してマナー向上と注意を喚起する必要がある。 国際交流事業では、ドイツメスキルヒ市との姉妹都市交流事業として、メスキルヒ市側の青少年訪問団の受入を実施した。 メスキルヒ市の同年代の子ども達との交流を通じて両市の相互理解と交流を促進し、併せてかほく市の中学生の国際的視野を広げ、国際協力の精神を養い、これからのかほく市を担うにふさわしい青少年の育成に資することができた。 また、市民交流団１０人と国際交流員がメスキルヒ市を訪問し、親交を深めた。 国際交流事業を企画・実施するにあたっては、今まで以上に市民や市民団体の積極的な参加を得ることをめざし、市民の国際理解を深める重要な取組として、今後もかほく市国際交流協会と連携しながら進めていく。 文化財保護事業において、史跡については児童生徒の学習教材としての活用を図り、地域の歴史に触れる憩いの場としての機能を保持した。特に上山田貝塚（国指定史跡）については、施設の一部補修を実施し史跡の保護を図った。 引き続き市民が地域の歴史や文化に対して愛着や誇りが持てるよう文化財の管理・公開・活用に努めていく必要がある。 また、開発行為等に伴う埋蔵文化財の取扱については、今後とも引き続き関係機関との連絡調整を密にしながら円滑な事前協議に努め、必要に応じて適切な記録保存を行っていく。 平成２４年度から始めた文化振興激励費の支給については、総合文化祭など全国大会への出場者の一層の活躍を願い、激励会において手渡した。出場者を鼓舞し、上位入賞をめざす精神的高揚につながった。

《スポーツ振興目標》
自らスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を目指す

【生涯学習課： スポーツ振興係】

ア）重点事項としての取組

１　生涯スポーツの推進

◆ 取組の方向

・スポーツ機会の提供と日常化の促進

・スポーツクラブなどとの連携の強化

主な取組	（１）市民１００日健康・体力づくり運動（560 千円） １回あたり３０分以上、週２回以上の運動習慣を身につけてもらうことを目的として、市民１００日健康・体力づくり運動を展開。 市民個々に合った運動の習慣化を促進することにより、健康維持・増進、体力づくりを推進。 ・１００日達成者　８００名 ・２００日達成者　５９４名 ・３００日達成者　４４３名　※平成２２年度からの累計 （２）第１０回かほく市民ふれあいウォーク（47 千円） ※スポーツ推進委員との連携により実施。 期　日　５月１８日（日） コース　七塚中央公園発着、七塚地区北部を巡る約８.５km のコース 参加人数　８０名 （３）第１０回かほく市スポレクサーキット大会（214 千円） ※スポーツ推進委員との連携により実施。 ３種目を実施 第１戦：カローリング競技　（６月２３日） 第２戦：ペタンク競技　（９月２４・２５日） 第３戦：ソフトバレー競技　（１月１９日） 参加登録チーム数（計４６チーム） 一般男子の部　２１ 一般女子の部　１５ 少年少女の部　１０ （４）第１０回市長杯争奪石川県ラージボール卓球大会（145 千円） 期　日　８月１８日（日） 会　場　河北台健民体育館 参加チーム数：男子の部２６、女子の部１６ ※市内からは計５チームが参加。20 代～80 代の幅広い年齢層が参加。

主な取組	（５）総合型地域スポーツクラブへの支援（7,418 千円） スポーツ振興くじ助成金を財源としたクラブパルへの支援を実施。 （平成２５年度をもって終了） クラブパルとしてスポーツの普及・振興のため、各種教室を開設。 キッズコース　５教室　ジュニアコース　１０教室 アスリートコース　３教室　エンジョイコース　１３教室 スタジオ教室　２１プログラム ほかに文化教室・セミナーを開催。 （６）健康クラブ活動への支援（1,891 千円） 高齢者の運動の日常化を促進し、体力・健康増進を推進。 ３クラブ（高松：６４名、七塚：７５名、宇ノ気：８０名）による活動 ①週１回の定期活動 ②各種大会への参加 ・第１８回能登地区健康クラブ交歓大会 期日　５月１６日（木）（穴水町）　参加：２２７名 ・第４６回石川県健康クラブ普及育成研修会 期日　６月１８日（火）（金沢市）　参加：２１名 ・第４６回石川県健康クラブ交歓大会 期日　１０月１６日（水）（金沢市）参加：２０４名

評価	市民の健康づくりを推進するため、市民１００日健康・体力づくり運動を引き続き展開し、運動に馴染みのない方へのきっかけづくり、自主的に日常生活に運動を取り入れてもらうきっかけづくりとした。運動への参加者総数はさほど多くはないが、平成２５年度中の１００日達成者は１００名であり、少しずつではあるが参加する市民が増えている状況である。習慣的に運動していても当該運動に参加していない市民が多い。しかし、ウォーキングやレクリエーションスポーツを通じて、市民の日常生活における気軽な運動の機会を提供することができた。更なる参加者の拡大を図っていきたい。 総合型地域スポーツクラブパルは、河北台中学校区におけるスポーツ活動を通して市民の健康保持や地域コミュニティの拡大を図っており、生涯スポーツや健康づくりの振興に寄与した。 高齢者健康クラブでは、毎週木曜日に七塚、金曜日に高松と宇ノ気の健康クラブが定期活動を行い、交歓大会などを通して交流を図った。また、自己の体力度チェックとしてメディカルチェックに参加し、一人一人の体力・健康保持に努めた。 健康づくりに関する事業の展開に際しては、医療、介護、保健などの関係所管との連携・協力を強化し、より事業効果があがる工夫を進めていきたい。

２　児童生徒の体力・運動能力の向上

◆ 取組の方向

・スポーツ少年団活動の推進　　・学校における運動機会の充実

主な取組	（１）スポーツ少年団活動への支援（2,193 千円） 青少年の体力向上及び心身の健全な育成を図る活動として支援。 補助金の交付　２，０５８千円 団 員 数　３２団体　７２９名（うち中学生６６名） 指導者数　１７０名 主な事業　開講式（４月）　定期活動（通年） スポーツ指導者講習会（６月、１１月） フェスティバル及び閉講式（２月） （２）体力向上推進 ①児童のスポーツに対する関心を高めることを目的として、石川県が推進するスポチャレいしかわに市内全小学校が各種目に挑戦。 ②体力アップ１校１プランにおいて、各小中学校が設定した目標に対する成果・課題を検証し、児童生徒の体力アップを推進。

評価	市スポーツ少年団に対して活動補助金を交付するとともに、事務支援を行なった。 スポーツ少年団への加入率は市内全児童の約３２％に及び、児童の日常生活のなかでも大切な活動となっている。単にスポーツ競技の修得の場でなく、社会性、協調性、規律性をはぐくむ場としても大切な役割を果たしており、「早寝早起き朝ごはん運動」の呼びかけも行っている。活動を通じて仲間づくり、体力や競技技術の向上、健全育成が図られた。 また、指導者に対しては、活動中の熱中症対策や落雷事故防止、児童の規則正しい生活の確保を呼びかけており、指導者としての専門的な知識・技能やコーチング能力を身につけるための指導者講習会の開催等、適切な指導と安全な活動に努めているものと捉えている。 スポーツ少年団の大会では、剣道や卓球において全国優勝や準優勝を成し遂げており、努力と指導の成果が現れたものと思われる。ただし、指導者や保護者の活動に対する過度な熱意が、児童の生活リズムや活動そのものに悪影響を及ぼす虞が有り得ることから、スポーツ少年団全体として注意を払うよう求めていく必要がある。 一方、学校においては石川県が推進する「スポチャレいしかわ　スポチャレ・４０ｍ」や「体力アップ１校１プラン」を実践することによって、児童生徒の体力向上を図ることができた。

３　競技スポーツの拡充・強化

◆ 取組の方向

・競技スポーツの底辺の拡大

主な取組	（１）競技スポーツの各種大会 　競技スポーツの練習成果を発揮する場として、また競技スポーツに親しむ機会の提供の場として各種大会を実施。 ①第６５回石川県民体育大会への参加（体育協会） 中心会期　　２月２３日（土）・２４日（日）　:〔冬季〕 　　８月１０日（土）・１１日（日）　:〔夏季〕 主 会 場　冬季（白山市）、夏季（加賀市） 成　　績　男子：総合の部＝第６位、一般の部＝第６位、壮年の部＝第８位 　　女子：総合の部＝第５位、一般の部＝第５位、壮年の部＝第５位 　　※２年連続の男女総合ダブル入賞 ・石川県民体育大会に向けて市総合体育大会（6/2 中心会期）を開催。 ※新たにマレットゴルフ協会が設立され、市体育協会に加盟。 ②かほく市２０１３サンドヒルグラウンド・ゴルフ大会（790 千円） 期　　日　８月２５日（日） 場　　所　高松グラウンド・ゴルフ場 　　チーム数　１９２チーム（９６０名） 　　※市内からは、６６チームが参加。 ③第１０回かほく市学童招待野球大会（296 千円） 期　　日　１０月１９日（土）・２０日（日） 会　　場　高松・宇ノ気野球場、金津ソフトボール場、河北台中学校野球場 参加チーム数　　市内４チーム、市外１２チーム ※市外からの招待チームとの試合を通じて、技術や競技力の向上を図った。 ④第１０回かほく市制施行記念継走大会（市制施行１０周年記念事業）（1,950 千円） 期　　日　３月２日（日） 第１部　　コ ー ス　宇ノ気小学校～かほく市七塚生涯学習センター 　　総 延 長　１３．２Km（４区間） 　　参加チーム数：計８６チーム 　　内訳　一般男子３２　一般女子６ 　　中学男子２１　中学女子１６　市外一般男子１１

主な取組	第２部　　ランニング講座（実技講演会） 講　師　　金　　哲彦　氏 演　題　　金さんのランニング健康学 ※市制施行１０周年記念として、第２部を開催。 （２）競技スポーツ大会への助成 ・第１８回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会（補助金：1,800 千円） ・第３５回加賀能登少年剣道大会（賞典等の支給） ・第１０回河北郡市中学校春季ソフトボール大会（補助金：63 千円） ・第１３回河北郡市中学校春季バスケットボール大会（補助金：36 千円）

評価	第６５回石川県民体育大会では、正式競技４２種目中３６種目にエントリーし、男女ともに総合の部において入賞を果たした。今回初めてマレットゴルフ競技に出場した。競技種目によっては定期練習や強化練習会場の十分な確保が難しくなってきているが、関係者による連絡調整をしながら対応している。今後も総合入賞を目指すとともに、参加種目の増加と競技スポーツの底辺拡大に努めていく。 特に競技人口が比較的少ない種目については、引き続き高校や大学での愛好者の発掘に努めていく必要がある。 各種大会の開催は、競技スポーツ愛好者の拡大と普及に寄与し、将来的な一般競技者の育成につながっている。青少年層の競技愛好者にとっては、健全な心身の育成にも寄与している。 また、青少年層の競技愛好者にとっては、健全な心身の育成にも大きく寄与した。 バドミントン、水泳、ソフトボール、インディアカ、トランポリン、陸上、ウエイトリフティングの７競技において、各種全国大会３位以上の成績を挙げており、今後の競技力の更なる向上が期待される。

４　体育施設整備の促進

◆ 取組の方向

・施設の統廃合計画の推進　　・施設機能の充実・強化

主な取組	（１）体育施設の整備と機能強化 かほく市体育施設整備計画（H23～H25）に基づき、事業を実施。 ①サッカー・ラグビー競技場の新設（245,808 千円） 高松陸上競技場跡地に新たに人工芝のサッカー･ラグビー競技場を整備し、あわせてトイレ施設をクラブハウス（管理施設）に改修。 ②高松野球場（高松運動公園内）の改修（118,854 千円） 夜間照明設備や防球ネットの全面改修、管理棟やグラウンドの一部改修を実施し、スコアボードも電光掲示盤に改修。 （夜間照明設備は H24～25 の２カ年で実施） ③金津ソフトボール場の改修（8,768 千円） グラウンドと管理棟の改修、バックネットの改修・更新。 （平成２４年度からの改修工事が完了） ④うのけ総合公園陸上競技場の改修（18,780 千円） 管理棟の改修及び用具庫の修繕。 ⑤体育館の耐震化及び改修（120,288 千円） ２つの体育館の耐震補強工事と一部改修を実施。 ・高松体育センター（耐震補強工事とトイレ等の改修） ・宇ノ気体育センター（耐震補強工事とトイレ等の改修） （２）体育施設整備計画の策定 ①高松グラウンド・ゴルフ場整備計画の作成 高松グラウンド・ゴルフ場拡張整備計画の実施設計を作成。

評価	「社会資本整備総合交付金」「スポーツ振興くじ助成金」などの財源を有効に活用し、高松野球場の改修、サッカー･ラグビー競技場の新設、高松体育センター及び宇ノ気体育センターの耐震補強と大規模改修を実施し、体育施設の充実と機能強化を図り、利用者の利便性向上を促進した。 次期第６６回石川県民体育大会会場となる施設については、平成２６年度の修繕・改修に向けて実施設計に一部着手した。 平成２３年度から着手した体育施設の整備については、平成２５年度をもって計画を完了した。

評価	なお、３つの弓道場の統合・整理、廃止したうのけ総合公園テニスコート跡地の処理については、未了であり今後の計画策定と実施が必要である。

イ）その他の取り組み

主な取組	（１）スポーツ推進委員の各種研修会への派遣（236 千円） スポーツの実技指導・助言、連絡調整の役割を担っているスポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会へ派遣。 ①全国スポーツ推進委員研究協議会（和歌山県） 期　　日　　１１月２１日（木）・２２日（金）　　５名 ②北陸地区スポーツ推進委員研修会（富山県） 期　　日　　７月１３日（土）・１４日（日）　５名 ③石川県スポーツ推進委員研修会（金沢市） 期　　日　　１２月１日（日）　　７名 ④河北郡市スポーツ推進委員協議会実技研修会（かほく市） 期　　日　　１月２５日（土）　１１名 （２）公認審判員（指導員）資格奨励金の交付（157 千円） 各競技の公認審判員等の資格取得のための研修費用の一部助成により資格取得を奨励。 公認審判員等取得者数 陸上競技　１６名　トランポリン　３１名 オリエンテーリング　１名　ゲートボール　５名 ソフトボール　１０名　水泳　１名 公認アシスタントマネジャー　１名 （３）全国大会等への参加選手等に対する激励費の支給（1,345 千円） ・全国大会出場選手等の激励会及び出場報告会の開催（８回） 高松市長杯グラウンド・ゴルフ大会：７月１０日（水） 全国高等学校総合体育・文化祭等大会：７月２４日（水） 全国道場少年剣道大会：８月１日（木） 全日本卓球選手権大会（バンビの部）：８月１４日（水） 全日本レディースソフトボール大会：９月９日（月） 国民体育大会：９月２０日（金） ふるさと駅伝：１１月１９日（火） 高等学校選抜大会：３月１３日（木） ・激励費支給者（総数） 一　般：　監督、コーチ、選手　８７名 大学生：　選手　３名 高校生：　選手　７０名 中学生：　選手　８名 小学生：　選手　３２名 延べ　２００名

主な取組	（４）体育施設の管理運営 ２１体育施設（屋外６施設、屋内１５施設）の適切な管理運営を行い、安全で安心なスポーツ環境を提供。 ①指定管理による体育施設の管理運営（55,725 千円） ２０施設の管理を指定管理者へ委託し、運営の効率化と維持管理の充実を推進。 ・宇ノ気体育センターほか１１施設 指定管理者：一般財団法人かほく市公共施設管理公社 ・宇ノ気体育館ほか６施設 指定管理者：ＮＰＯ法人クラブパレット ・七窪体育館 指定管理者：七窪区 ②体育施設の芝生管理業務 ・うのけ総合公園陸上競技場等（9,240 千円） ・高松運動公園体育施設等（2,489 千円） ・高松グラウンド・ゴルフ場（6,164 千円） ③体育施設の修繕等 ・高松グラウンド・ゴルフ場（3,192 千円） クラブハウス外壁改修、券売機の更新等 ・河北台健民体育館及び七塚テニスコート（4,604 千円） 体育館ロビー照明器具ＬＥＤ化、駐車場修繕 テニスコート防風・防砂ネット修理、ネットポスト取替 ・アクロス高松（5,496 千円） プール可動床装置修繕、制御盤取替 設備長寿命化計画策定　ほか

評価	スポーツ推進委員が中心となって、市民のスポーツ参加へのきっかけづくりとして「ふれあいウォーク」や「スポレクサーキット」「市民体力テスト」など軽スポーツ事業を企画運営したほか、その他団体等のスポーツ行事などの運営に積極的に参画し、市のスポーツ振興に貢献した。 公認審判員（指導員）の資格取得を促し、競技者としての資質や指導力の向上を図った。

評価	高校総体など全国大会への出場者の一層の活躍を願い激励会を開催した。出場者を鼓舞し、上位入賞をめざす精神的高揚を図った。 ２１施設中２０施設を指定管理者による管理運営とし、安全・安心で効率的な施設の管理運営を図った。なお、新設施設を含む２施設の平成２６年度からの指定管理者の公募選定を行った。 その結果、アクロス高松の指定管理者に「コナミスポーツ＆ライフ・ＰＦＵライフエージェンシーグループ」を新たに選定して平成２６年度から１０年間の指定管理としたことにより、同施設の維持管理経費の大幅な削減と、より充実かつ効率的な施設運営が期待される状況となった。また、新設のサッカー・ラグビー競技場の指定管理者に「ＮＰＯ法人クラブパレット」を選定した。ＮＰＯ法人の特性を活かし指定管理料の負担軽減と利用拡大を期待している。 また、７月から使用料を利用料化し、使用料等の歳入については全て指定管理者の収入にするものとした。これにより指定管理料の減額が図られたことに加え、指定管理者が持つノウハウを生かした創意的な事業展開も期待される。 芝管理業務や各種修繕の実施により、快適に安心して利用できる施設の管理運営に努めた。

資　　料

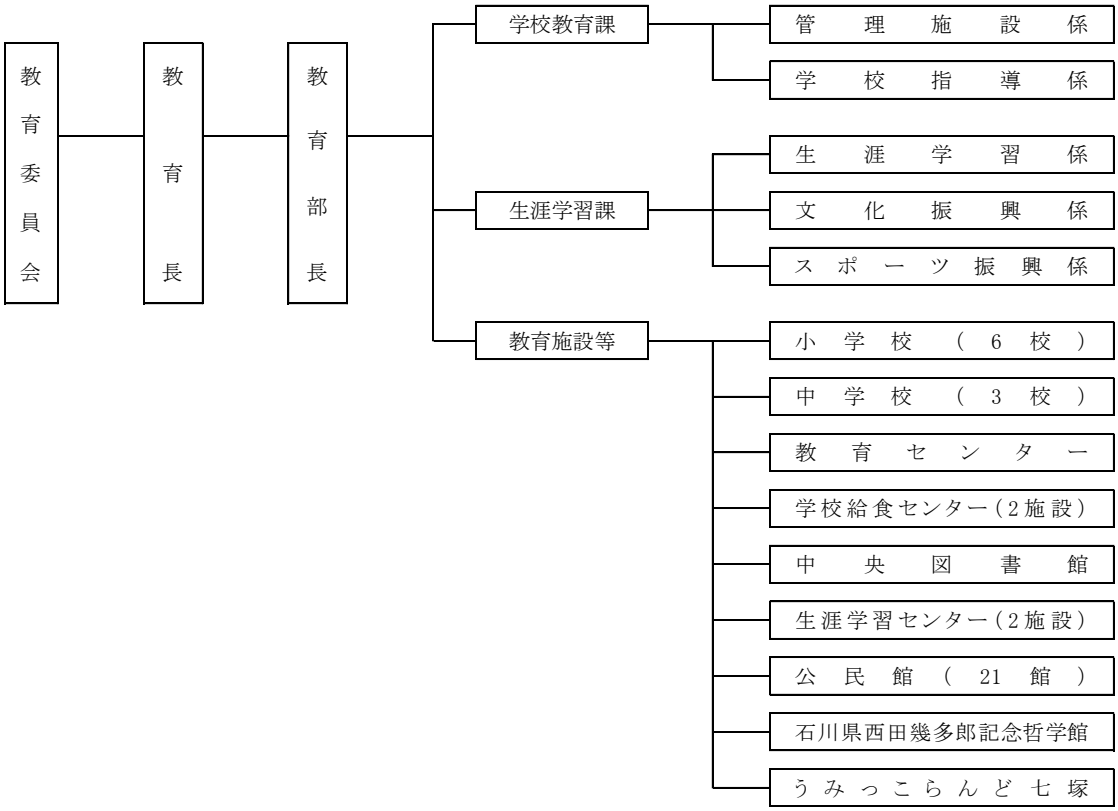
1　教育委員会委員

（平成２６年５月１日現在）

職　　名	氏　　名	教育委員の任期
委　　員　　長	松　井　三枝子	平成２５年４月２８日～平成２９年４月２７日
委員長職務代理者	山　本　滝　男	平成２６年４月２８日～平成３０年４月２７日
委　　員	寺　西　哲　秀	平成２４年４月２８日～平成２８年４月２７日
委　　員	中　田　節　子	平成２３年４月２８日～平成２７年４月２７日
教　　育　　長	遠　田　敏　博	平成２４年４月２８日～平成２８年４月２７日

2　教育委員会の組織

（平成２６年４月１日現在）



３　教育機関

（1）小学校

（平成２６年５月１日現在）

名　称	開設年月日	児童数
かほく市立高松小学校	明治　６年	４２０人
かほく市立大海小学校	明治　８年　１月	１０５人
かほく市立七塚小学校	明治　６年　７月　４日	２５６人
かほく市立外日角小学校	明治　８年１１月１７日	４１５人
かほく市立宇ノ気小学校	明治　８年　４月１０日	７１２人
かほく市立金津小学校	明治　６年１１月	９４人

（2）中学校

（平成２６年５月１日現在）

名　称	開設年月日	生徒数
かほく市立高松中学校	昭和２２年　４月　１日	２７４人
かほく市立河北台中学校	昭和３２年　４月　１日	３６４人
かほく市立宇ノ気中学校	昭和２２年　４月　１日	４９９人

（3）教育センター

（平成２６年４月１日現在）

かほく市教育センター	

（4）学校給食施設

（平成２６年４月１日現在）

かほく市第１学校給食センター	かほく市第２学校給食センター

（5）社会教育施設

（平成２６年４月１日現在）

かほく市立中央図書館	かほく市七塚生涯学習センター
かほく市宇ノ気生涯学習センター	石川県西田幾多郎記念哲学館
かほく市うみっこらんど七塚	かほく市高松公民館
かほく市二ツ屋公民館	かほく市長柄町公民館
かほく市木津公民館	かほく市松浜公民館
かほく市遠塚公民館	かほく市浜北公民館
かほく市秋浜公民館	かほく市外日角公民館
かほく市白尾公民館	かほく市森公民館
かほく市指江公民館	かほく市至誠が丘公民館
かほく市気屋公民館	かほく市宇気公民館
かほく市七窪公民館	かほく市宇野気公民館
かほく市内日角公民館	かほく市大崎公民館
かほく市金津公民館	かほく市上田名公民館

（6）社会体育施設　　（平成２６年４月１日現在）

かほく市高松体育センター	かほく市七塚体育センター
かほく市宇ノ気体育センター	かほく市河北台健民体育館
かほく市宇ノ気南部体育館	かほく市宇ノ気新化館
かほく市金津体育館	かほく市七窪体育館
かほく市宇ノ気スポーツセンター	かほく市河北台体育館
かほく市宇ノ気体育館	かほく市うのけ総合公園陸上競技場
かほく市サッカー・ラグビー競技場	かほく市七塚中央公園多目的運動広場
かほく市高松野球場	かほく市宇ノ気野球場
かほく市金津ソフトボール場	かほく市七塚テニスコート
かほく市高松グラウンド・ゴルフ場	かほく市七塚武道館
かほく市高松弓道場	かほく市宇ノ気弓道場
かほく市アクロス高松	

４　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成２５年度
かほく市教育委員会点検及び評価報告書

発行年月：平成２６年　８月

発 行 者：かほく市教育委員会

学校教育課　TEL 076-283-7136　/　FAX 076-283-3643
E-mail　：　gakkou@city.kahoku.ishikawa.jp
生涯学習課　TEL 076-283-7137　/　FAX 076-283-3643
E-mail　：　syougai@city.kahoku.ishikawa.jp

〒929-1195　石川県かほく市宇野気ニ８１番地（かほく市役所内）

URL：http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/